

図書館だより



発行：九州看護福祉大学附属図書館
〒865-0062 熊本県玉名市富尾 888 番地
TEL 0968-75-1840 FAX 0968-75-1873



開館カレンダー掲載
2015年4月～7月

表紙写真については最後のページへ Go!

《Contents》

- ◇ 教員エッセイ
鍼灸スポーツ学科
助教 浅井福太郎先生 p.2-3
- ◇ 教員近著
鍼灸スポーツ学科
教授 篠原昭二先生 p.4
- ◇ 開館カレンダー p.5
- ◇ 図書館の利用方法 p.6-7
- ◇ お知らせ・編集後記 p.8



教員エッセイ



鍼灸スポーツ学科 助教 浅井福太郎

今回の図書館エッセイを書くにあたって、これまでの人生を振り返って、自分はほとんど図書館を利用してこなかった人間だと強く感じた。小・中学生の頃は、読書感想文のためだけに図書館で本を借り、本を借りる図書館のイベントでは、読みもしない多くの本を借りることに夢中になったことを覚えている。そのため、今回のエッセイを書くにあたっては少しの罪悪感が頭をよぎった。

こんな自分だが、最近読むようになった本がある。その本のタイトルは「たまごクラブ」だ。これだけのお気づきの方は多いと思うが、今年の5月に、第一子が生まれる予定である。結婚して7年経っていたこともあり、妊娠の報告を受けた時は何ともいえない感動であった。しかしながら、自分自身特に子供や子育てに興味のアンテナを張っていなかったこともあり、実際、出産のイメージや父親になることに対する実感が薄く、妻からの月1回の検診結果を聞いて、順調な成長を喜んでいる1人のファンのようなものであった。そのため、出産の準備や妊婦の不安、胎児のちょっとした変化にどう対応して良いのか分からず、不安に駆られるだけで何もしてあげられない自分がいた。これではいけないと思って取った行動が「たまごクラブ」を手にとることであった。この本の中には、どの時期に何を準備しておくべきか、胎児や妊婦へのケア、父親に対する注意点など、自分が不安に感じていた内容がこれでもかと書かれており、もっと早く読んでおけばと後悔したものだ。

これから、子供の名づけや、教育、家庭についても、さらに学ぶ必要が出てくる。育児に関して、やってみなければ分からないからと少しずつ実際に経験しながら勉強していくことも大事だが、大切な家族を少しでも不安なく守るためには、できるだけ事前に知識を得て万全の準備を行い、後悔がないように育てていきたいと思うのが当然の感情だろう。だから、今後も自分は本を読み続けると思う。

大学生の頃まで、ほとんど本を読んでこなかった自分。将来の職業や、やりたいことに関して中々決めることができなかつた理由の1つは、情報に疎く、知らないことが多過ぎた。誰しも、自分が知らない選択肢は選べない。知っているということは、可能性が増えることでもある。何をしたら良いのか分からなかつたら、もしくはこれから何をするのか決まったら早速図書館で調べてみよう。自分にとって今必要な本に出会えるかもしれない。



教員近著

◇ 『緩和ケア鍼灸マニュアル』

糸井啓純、篠原昭二編著
医歯薬出版
2014年



鍼灸スポーツ学科
教授 篠原 昭二

「緩和ケア鍼灸マニュアル」(医歯薬出版)が昨年、平成26年5月20日に明治国際医療大学外科学教室 糸井啓純教授との編著として発刊された。

一般的に鍼灸治療は死と向き合うことの少ない臨床方式であり、腰痛、肩こり、膝関節痛などの運動器系愁訴や更年期障害を含む不定愁訴などが適応と考えられているようである。一方、著者らが過去において調査した結果、開業鍼灸師の多くががん患者さんの治療を行った経験を有している(78%)実態も明らかにしてきた。しかし、鍼灸師養成課程においてがんは不適応疾患であり、担がん患者さんの鍼灸治療などは教授していないのが現状である。そこで、鍼灸師のための緩和ケア領域での仕事を始めるにあたっての入門書として、執筆したものである。

本書での内容は、明治国際医療大学附属病院開院以来、外科病棟での鍼灸治療を担当してきた中で、特にがん患者さんの緩和ケア(ターミナルケアを含む)の経験および、平成22年から23年は緩和ケア病棟で、平成24年から25年は緩和ケアチームに所属して緩和ケアを行って得られた症例を中心としてまとめたものである。

無薬物療法で鍼や灸を体の表面のつぼに刺激するといったとてもシンプルな治療であるが、モルヒネを投与しても効果が得られなかつた疼痛に対して、緩和効果が得られるとても不思議な治療でもある。緩和ケアに興味のある鍼灸師および医療スタッフにお勧めしたい。

開館カレンダー

◎2015年4月～7月

- 通常開館 9:30 - 19:00
- 延長開館 9:30 - 20:00
- 短縮開館 9:30 - 18:00
- 休館日

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

図書館の利用

新学期が始まりました。今年度も多くの方に図書館を利用してもらえるよう、図書館の基本情報や活用方法についてご紹介します。

① 図書館の基本情報

九州看護福祉大学附属図書館
 開館時間 9:30～19:00 (月～金)
 9:30～18:00 (土)
 ※長期休暇や行事等により変更有

貸出 1人5冊まで、貸出期間は2週間。
 U R L <http://lib.kyushu-ns.ac.jp/>

検索

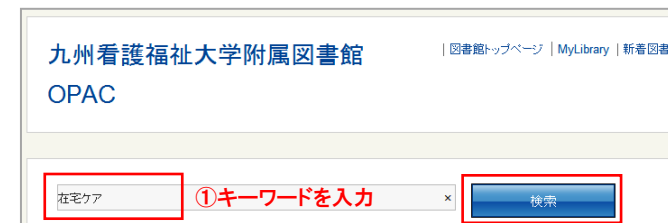
② 図書館の活用

Q1 本のリクエストは受け付けていますか？

A1 図書館にリクエストカードを設置しています。カードにタイトル・著者等を書いてリクエストボックスまたはカウンターにご提出ください。

Q2 在宅ケアについて調べています。図書館にはどんな本がありますか？

A2 学内所蔵検索 OPAC は、キーワードで所蔵図書を検索することができます。



貸出中の場合、OPAC から予約もできます！



Q3 明日が返却日ですが、まだ読み終わっていません。返却日を延ばすことはできますか？

A3 返却日までに延長の手続きをすれば、その日からさらに2週間借りることができます。図書館外のPCやスマートフォンからも手続き可能です。



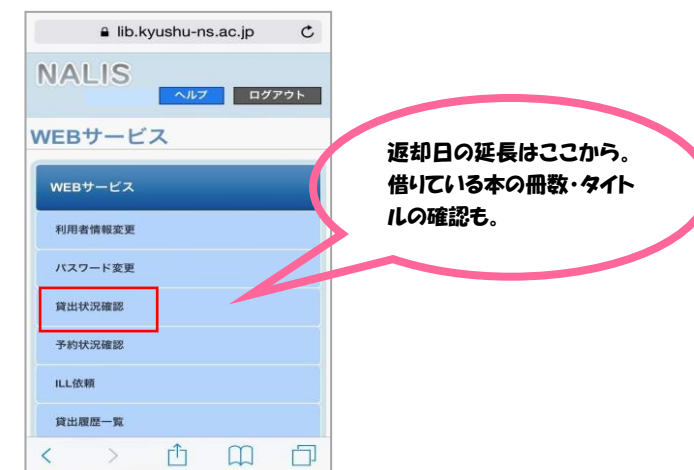
検索や予約、延長は、図書館や学内 PC だけでなくスマートフォンからも利用できます。

《 ログインについて 》
 I D : 学籍番号
 パスワード : Live Campus のパスワード

《 スマートフォン画面 》



Web サービストップ画面



お知らせ

◎第1回選書ツアーについて

実際に学生さんと書店に行って、図書館に置く本を選んでもらうイベントです。詳細は Web や館内のポスターをご覧ください。申込制のため、希望者は図書館カウンターまでお申込ください。

第1回: 4月18日(土) 14:30～16:00
 蔦谷書店熊本三年坂店
 ※第2回は10月3日(土)に実施予定です。

昨年の選書図書

- ・リハビリテーションのための疾患ガイド
 - ・中学・高校教師になるための教育心理学
 - ・社会福祉士合格一問一答 : ミネルヴァ国家試験対策
 - ・村上海賊の娘 等々
- 2回で128冊を選書。
 小説、専門書、問題集など幅広く選べます。

◎企画展示のご案内

図書館ゲート前では、企画展示「雑誌の増刊号」を実施中です。図書館2階にある学術雑誌の2010～14年の増刊号を特集しています。一冊まるごとガイドブック形式になっていたり、オールカラーの写真やイラストで解説してあったり内容は様々です。貸出も可能のため、自宅ゆっくり読むことができますよ。4月中旬からは同窓会からの寄贈図書を紹介します♪

◎ゼミ単位図書館利用説明会について

毎年4～5月と10月にゼミ単位の図書館利用説明会を実施しています。ゼミ単位の説明会ですので、学科・学年に応じた内容をご提供できます。興味がある方は、図書館またはゼミ、プレゼミの先生にご相談下さい。お申込お待ちしております。

◎ツタヤDVDレンタルについて

今年度もツタヤDVDレンタルを実施します。前期4月～6月、後期10月～12月に実施予定です。新作は1週間、旧作は2週間単位で入れ換えています。今年から、先生のおススメ作品もありますので、ぜひご覧ください。学生リクエストもお待ちしています。※視聴は館内のみです。

表紙の紹介

今回の表紙は、鍼灸スポーツ学科です。模擬患者を治療する様子を他の実習生がチェックしています。真剣な眼差しからは集中して取り組んでいる様子が伝わりますね。



編集後記

図書館はアプリケーションのようなものかもしれません。アプリの使い方は利用者しだいで、個人によって使う頻度や目的は違います。26号は、図書館の利用方法、特に図書館システムについて紹介しました。今回、紹介したことを参考に利用者ひとりひとりに合った図書館の利用につなげてもらえれば幸いです。